

第14回OECD/Japanセミナー

PISA調査と

日本の教育改革

～エビデンスに基づく改善サイクルの構築～

鈴木寛 文部科学副大臣

2011年6月28日

# 日本の教育制度

## 国と地方公共団体との適切な役割分担と相互の協力

### 国の役割

学校教育制度、各機関の役割・関係を法定、学習指導要領の策定、教科書検定、小中学校の施設設備や教職員給与(1/3)の財政的補助 等

### 都道府県の役割

高等学校・特別支援学校の設置・運営、小中学校の教職員の給与負担(2/3)・人事 等

### 市町村の役割

小学校・中学校の設置運営、教科書の採択、小中学校の教職員の服務監督

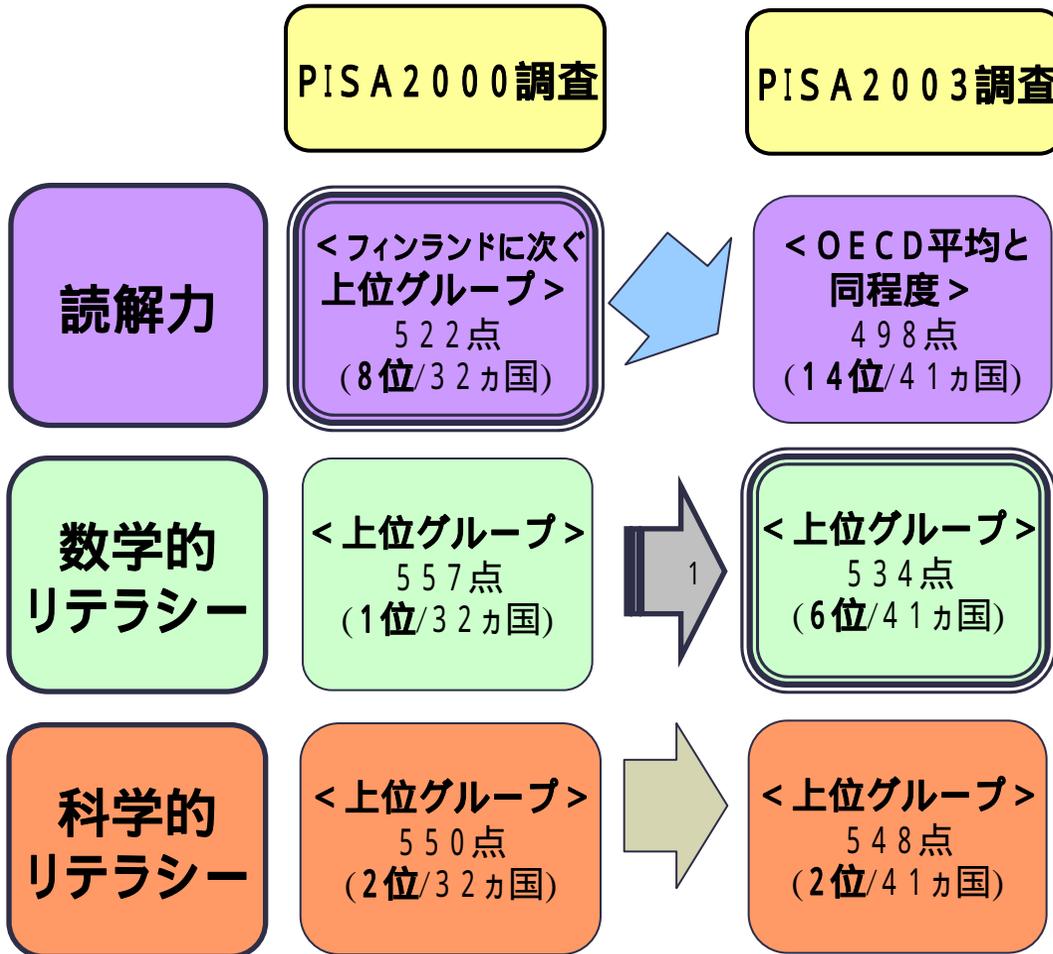
### 学校の役割

教育課程の編制、教育の実施

# 1. PISA調査等から見られた 日本の教育の 特徴と課題について

# PISA調査における我が国の状況

PISA2003調査で読解力に有意な下降が見られた



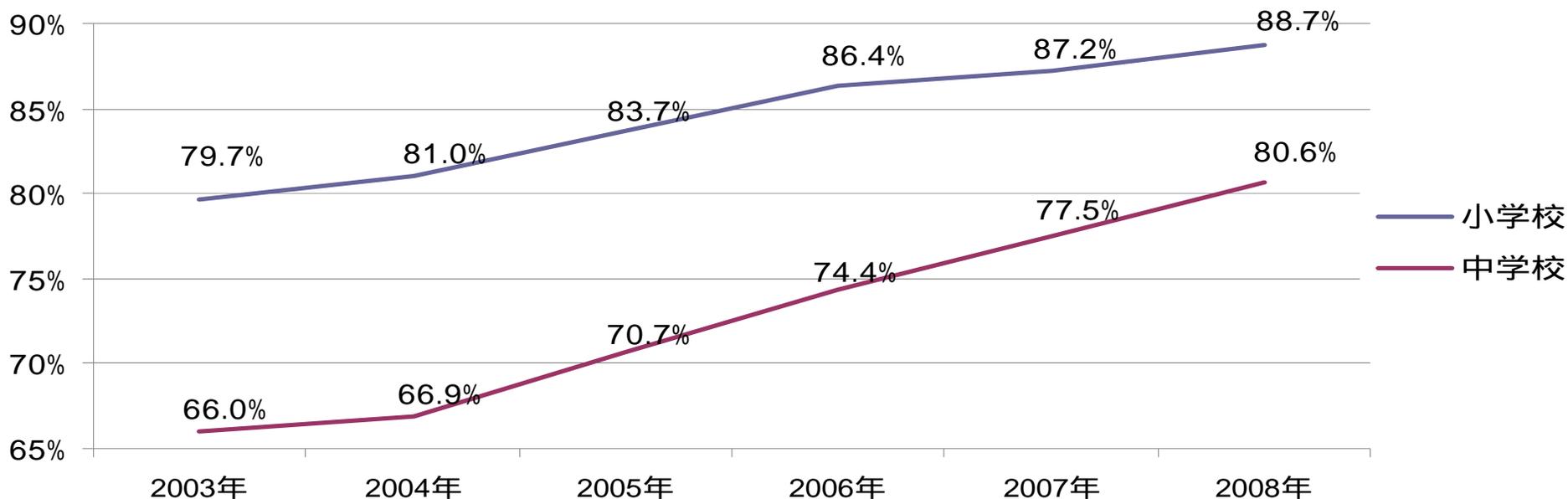
1 2000年、2003年の共通領域の結果で比較

# PISAショックを受けた我が国の主な取組み

## 読解力向上プログラム

- PISA型「読解力」の育成を目指し、読書活動の充実など、学校、国・教育委員会での取組を明示
- ・学校の取組 ……「朝の読書」など読書活動の推進、自分の考えを書かせる機会の充実
  - ・国・教育委員会の取組 ……国語力向上研修の実施、指導資料の作成・配布、学校図書館の充実

全校一斉の読書活動の実施状況(朝の始業前に実施している学校の割合)

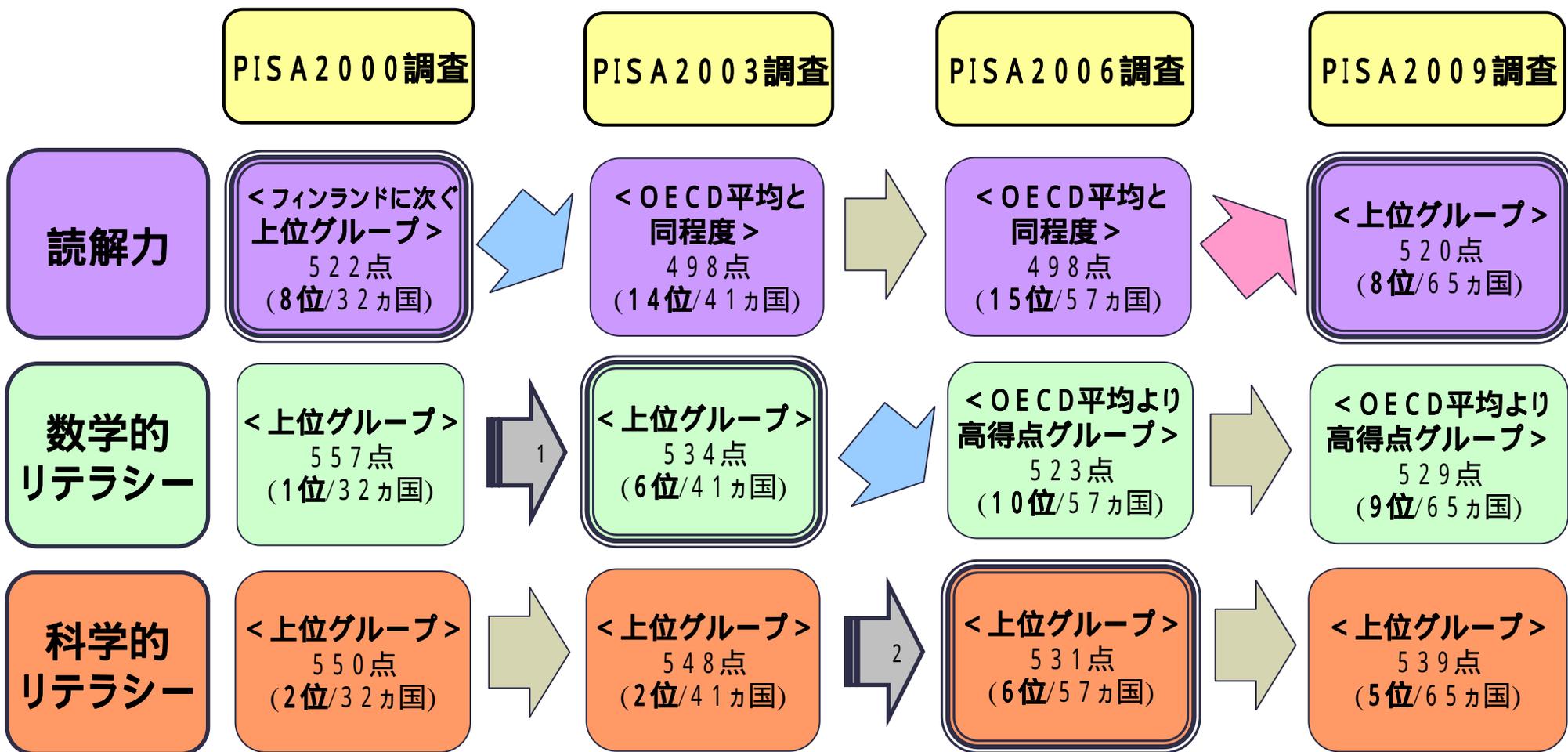


出典:「学校図書館の現状に関する調査」より作成

## 全国・学力学習状況調査の実施

調査結果等を踏まえた、学校、国・教育委員会での取組による検証改善サイクルの構築

# 読解力を中心に我が国の生徒の学力は改善傾向



1 2000年、2003年の共通領域の結果で比較

2 出題の枠組みが変わったため、比較可能な共通問題の結果で比較

# PISA 2009 調査結果

## 全ての分野で参加65カ国・地域中10位以内

(65カ国・地域が参加、それぞれ上位15カ国・地域のみ掲載)

	読解力	得点	数学的リテラシー	得点	科学的リテラシー	得点
1	上海	556	上海	600	上海	575
2	韓国	539	シンガポール	562	フィンランド	554
3	フィンランド	536	香港	555	香港	549
4	香港	533	韓国	546	シンガポール	542
5	シンガポール	526	台湾	543	<b>日本</b>	<b>539</b>
6	カナダ	524	フィンランド	541	韓国	538
7	ニュージーランド	521	リヒテンシュタイン	536	ニュージーランド	532
8	<b>日本</b>	<b>520</b>	スイス	534	カナダ	529
9	オーストラリア	515	<b>日本</b>	<b>529</b>	エストニア	528
10	オランダ	508	カナダ	527	オーストラリア	527
11	ベルギー	506	オランダ	526	オランダ	522
12	ノルウェー	503	マカオ	525	台湾	520
13	エストニア	501	ニュージーランド	519	ドイツ	520
14	スイス	501	ベルギー	515	リヒテンシュタイン	520
15	ポーランド	500	オーストラリア	514	スイス	517
	OECD平均	493	OECD平均	496	OECD平均	501

# PISA 2009 調査結果から見られた課題

トップレベルの国々と比べると下位層の割合が高い

読解力 [単位:%]			
レベル	1b未満	1b	合計
日本	1.3	3.4	4.7
上海	0.1	0.6	0.7
韓国	0.2	0.9	1.1
フィンランド	0.2	1.5	1.7
香港	0.2	1.5	1.7
カナダ	0.4	2.0	2.4
OECD平均	1.1	4.6	5.7

数学的リテラシー [単位:%]	
レベル	レベル1未満
日本	4.0
上海	1.4
韓国	1.9
フィンランド	1.7
香港	2.6
カナダ	3.1
OECD平均	8.0

科学的リテラシー [単位:%]	
レベル	レベル1未満
日本	3.2
上海	0.4
韓国	1.1
フィンランド	1.1
香港	1.4
カナダ	2.0
OECD平均	5.0

レベル1 (読解力は1b) 未満を「下位」とする。

## 読解力

上位の習熟度レベルに属している生徒の割合が比較的多い  
必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して  
解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手  
自由記述形式問題の無答率が高い

総合読解力	情報アクセス	統合・解釈	熟慮・評価
8位	4位	7位	9位

## 数学的リテラシー

OECD平均を上回っているが、トップレベルの国々とは差がある。

## 科学的リテラシー

上位の習熟度レベルに属している生徒の割合が比較的多い  
特に科学的能力は全ての分野で日本はOECD平均を上回っている  
2000年の調査開始以来、国際的な上位グループを維持している

## 学習に対する興味・態度

趣味として読書に費やす時間があると回答した生徒の割合が低い  
数学の授業が楽しみであると回答した生徒の割合が低い  
科学について学ぶことに興味があると回答した生徒の割合が低い

趣味として読書に費やす時間がある(PISA2009)	日本: 55.8%	OECD平均: 62.6%
数学の授業が楽しみである(PISA2003)	日本: 26.0%	OECD平均: 31.5%
科学について学ぶことに興味がある(PISA2006)	日本: 50.0%	OECD平均: 63.0%

## 授業時間

一週間当たりの授業時間は、OECD平均と比べ、特に理科の授業時間が少ない

国語	日本: 211分	OECD平均: 217分	フィンランド: 150分	シンガポール: 283分
数学	日本: 235分	OECD平均: 214分	フィンランド: 172分	シンガポール: 344分
理科(科学)	日本: 148分	OECD平均: 202分	フィンランド: 194分	シンガポール: 345分

## 教育体制

助けが必要な時は、先生が助けてくれると回答した生徒の割合が低い

助けが必要な時は、先生が助けてくれる	日本: 63.5%	OECD平均: 78.2%
--------------------	-----------	---------------

# 全国学力・学習状況調査から

## 全国学力・学習状況調査

2007年から悉皆実施、2010年以降は約30%の抽出調査と希望利用方式  
小学6年生(11・12歳)、中学3年生(14・15歳)が対象  
国語、算数・数学について、「知識」・「活用」に関する問題について調査を実施

## 国語の課題例

資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること  
文の構成を理解し、伝えたい内容を適切に書いたり、遂行したりすること  
スピーチなどにおける話し方の工夫をとらえること  
小学生に向けた案内文となるよう適切な文章を書くこと

## 算数・数学の課題例

日常的な事象について、道筋を立てて考え、数学的に表現すること  
割合や比例など、2つの数量の関係を理解すること  
円柱の体積を求めること  
16cmのひもでつくった長方形の横の長さ(y)を縦の長さ(x)で表すこと

# 全国学力・学習状況調査から得られた知見

## 平均正答率が高い県と低い県で回答が分かれた質問

文章問題を最後まで回答しようと努力する児童生徒の割合

朝食を毎日食べるなどの**生活習慣**が定着している児童生徒の割合

**学習方法**(適切にノートをとる、間違いを振り返って学習する)の指導を実施する学校の割合

宿題など**家庭学習**への学校の積極的な働きかけを行う学校の割合

学習規律(私語をしない、話し手を向いて聞くなど)の維持を徹底している学校の割合

## 連続して好成績を残した県の特徴

3世帯同居率が高い

長時間(1日4時間以上)テレビ等を見る児童生徒の割合が低い

家で学校の授業の復習をしている児童生徒の割合が高い

早くから**少人数指導**に取り組んでいる

「**朝の読書**」などの一斉読書の時間を毎日設けている学校の割合が高い

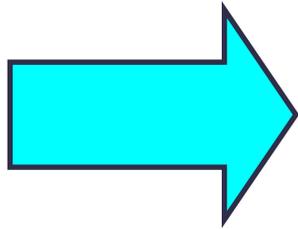
**補充的な学習**の指導により、学力の底上げを図っている学校の割合が高い

学校の教育目標やその達成方策について教職員間で共有し取り組む学校の割合が高い

# 調査から見られた日本の教育の課題

## 分野別の課題

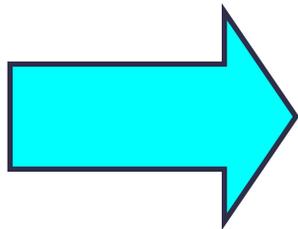
資料や情報を読み取り解釈したり、自らの知識や経験と結びつけることが苦手  
伝えたいことを明確に記述することが苦手  
知識を様々な場面に結びつけ活用する力が低い



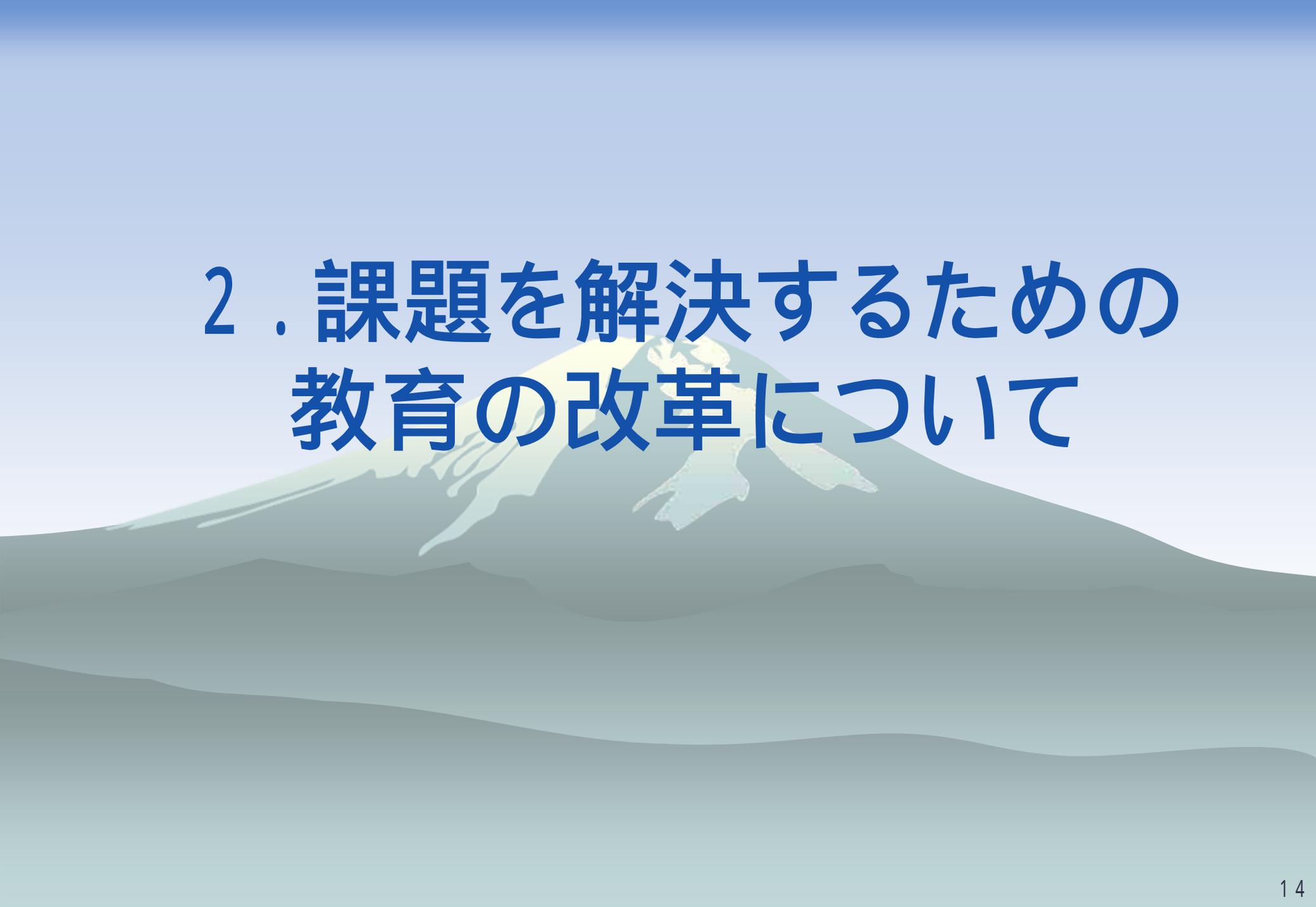
## 学習内容の改善

## 全般的な課題

トップレベルの国々と比べると下位層の割合が高い  
支援・指導が必要な生徒への指導体制ができていない  
学習に対する興味や態度が消極的



## 教育体制の改善



## 2. 課題を解決するための 教育の改革について

# 学習内容の改善

## 学習指導要領の改訂と着実な実施

### 学習指導要領

全国的に一定の教育水準を確保するために文部科学大臣が定める教育課程の基準  
教育課程全般の配慮事項や授業時数の取扱い、各教科等の目標、内容等を規定  
ほぼ10年毎に社会の変化や時代の要請に対応するために内容を改訂  
学習指導要領に基づきに民間の教科書発行者が作成した図書が国の検定を経て教科書となる

### 2011・2012年改訂の基本的な考え方

教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえ、「生きる力」を育成  
知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視  
道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成



### バランスのとれた学力の向上

【基礎的・基本的な知識・技能の習得の重視】

つまづきやすい内容の確実な習得を図るための繰り返し学習の実施

【思考力・判断力・表現力等の育成の重視】

各教科等で、観察・実験やレポートの作成など、知識・技能を活用する学習活動を充実  
教科等を横断した課題解決的な学習や探究的な活動を充実

## 教育内容の主な改善事項

### 言語活動の充実

伝統や文化に関する教育の充実  
体験活動の充実

### 理数教育の充実

道徳教育の充実  
外国語教育の充実



### 言語活動の充実

言語の力を使って、子どもたちの思考力、判断力、表現力等を育むため、国語をはじめ各教科等で批評、論述、討論などの学習活動を充実

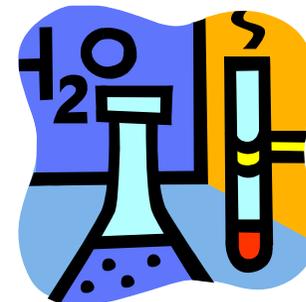
### 理数教育の充実

国際的に通用するカリキュラムにするとともに、新しい科学的知見に対応するよう指導内容を充実  
算数・数学では、反復学習や、学習の中で学んだことを実生活で生かすような学習を充実  
理科では、観察・実験を充実



### 授業時数の増加

国語の授業時数の増加	(小学校 6%増、中学校 10%増)
算数・数学の授業時数の増加	(小学校 16%増、中学校 22%増)
理科の授業時数の増加	(小学校 16%増、中学校 33%増)



# 教育体制の改善

## 教員数の充実と資質能力の向上

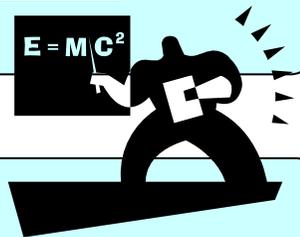
### 少人数指導の実現

学級編制の標準人数を改訂し、公立小学校第1学年の学級編制の標準を40人から35人に引き下げ  
市町村が地域や学校の実情に応じ、柔軟に学級を編制できる仕組みの構築  
少人数学級によるきめ細かな指導の実現



### 教職大学院

学部卒業生を対象に、さらにより実践的な指導力・展開力を備えた新人教員、  
現職教員を対象に、確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダー  
の養成を目的に開設(2011年時点で25大学)



### 教員免許の更新制

教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を習得  
免許状に10年の有効期間を定め、10年ごとに大学等で免許状更新講習を受講

# 学校組織マネジメントの構築

学校長の裁量の拡大、学校関係者評価の実施、教員の負担軽減 等



## 学校・家庭・地域の連携・協力を強化し、社会全体で教育

### コミュニティ・スクール(学校運営協議会)

地域住民等が学校運営に一定の責任と権限を持って参画することを通じて、地域と一体になった学校づくりを推進(2011年時点で789校)



### 学校支援地域本部

授業等の学習補助、学校行事支援、学校環境整備などに地域住民等が参画し、地域全体で子どもたちの学びを支える仕組みづくりを促進(2010年時点で2,540本部)



### 放課後子ども教室

放課後や週末等に、学校の余裕教室等を活用して子どもの活動拠点(居場所)を設け、地域の協力を得て、様々な体験・交流活動等の機会を提供(2010年時点で9,280箇所)

# 検証改善サイクルの構築

## 全国学力・学習状況調査を受けた検証改善サイクルの構築

### 国の取組

全国学力・学習状況調査の実施(調査教科に理科を追加)  
結果のフィードバック 全国的な課題への対応

効果的で優れた  
「アクションプラン」と  
実践例の集約・普及

### 教育委員会の取組

地域内の学校が共通する課題等の改善を図るため、教育委員会と学校等が連携して、教育活動等の改善に取り組む「アクションプラン」を作成、域内へ普及

### 学校の取組

「アクションプラン」、児童生徒一人ひとりの  
学力・学習状況の把握を踏まえた教育指導  
や学習の改善

### 保護者・地域住民

学校の教育活動の評価  
学校運営への参画や支援